

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2294201658		
法人名	(株)ファミリーユ		
事業所名	グループホーム つぐみ下島		
所在地	静岡県駿河区下島447-2		
自己評価作成日	令和3年11月10日	評価結果市町村受理日	令和4年1月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JiyouyoCd=2294201658-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	令和3年11月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念でもある「利用者様の思い願いを第一に考えるケアの実践」を行えるように、今までの生活やこだわり、大切にしていることやつながりを知り、理解し共に支え合い、生活を送ることを目指しています。

また利用者やご家族様が安心して生活をできるように、往診Dr内科、歯科、処方箋薬局と医療との連携を密に24時間医療的ニーズや、環境作りを強化に努めている。

利用者様が暮らす”自宅”として、居心地が良い環境を目指し、認知症の方でも「活躍できる暮らし」を支援していく。また今の暮らしを継続できるようにハビリメニューを作成し取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

コロナ禍の面会で県外来設はお断りしていますが、併設事業所の利用者は自宅から通っていることもあり、また「明日何があるかわからない(ので家族に会わせてあげたい)」との考えから、衛生面をはじめ「1名なら」といった条件を整備して面会を可能として家族から飲ばれており、「ここなら面会できますか」との問い合わせから移設してきた利用者もいます。敬老会に家族は招くことはできなかったものの、職員の矢島美容室や氣志團のパフォーメンズ、利用者と職員の太鼓演舞がコロナ禍前と変わらず披露され、また太鼓は「西脇太鼓」の皆さんのご好意で借りることができたというのも、当事業所のこれまでの努力と実力が滲みます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「利用者様の想い願いを第一に考えるケアの実践」の理念を叶えるため、理念の共有は常に仕事、サービスに反映するように努めている。年度末の職員会議で全体の成果と反省を話し合い、今年度の目標を立てます。	法人理念、基本方針、事業所理念と階層的に方向性を設けています。法人理念に基づき年度目標を立案、年度末には推進・達成状況を確認して、次年度の目標を作成することで、身近なものとして実現させています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年は新型コロナ禍の感染予防もあって、地域とのつきあいが少なくなっています。感染がピークの時は散歩しても閑散としてましたが、最近では公園で遊んでいる地域の子供達と挨拶で交流しています。	散歩コースで顔なじみと挨拶を交わし、神社でのキャッチボールでは子どもがボールを拾ってくれる等、コロナ禍であっても穏やかな日常の中に地域とのふれあいがあり、不要のおむつや手作りマスクも届いています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	新型コロナ禍で、運営推進会議や、でん伝体操教室が延期され、地域の方との交流の場は少なくなっています。散歩時にゴミ拾いをしたり、入口の花壇の作業をしながら近所の方との交流は続いています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナ禍の影響で、運営推進会議は、去年の1月以降延期しています。事業所での運営推進の報告書を作成し、関係のある方に配布しています。	集まれば話材に事欠かない活気ある運営推進会議でしたが、昨年1月から書面会議となっています。民生委員のジョギング時間に合わせて散歩する工夫もあって、メンバーと立ち話は叶っています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護保険課、生活支援課と話すことで情報を得ている。地域包括センターとは特に些細なことや、地域で困っている高齢者の相談に関わっている。	市役所からのネット配信は随時確認しており、アンケートの回答等に協力しています。管理者は営業を兼ねて地域包括支援センターに出向くほか、隔月開催の研修会への参加にも努め、連携につなげています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員会議の中で研修として身体拘束をテーマに行い、その中で知識を学び実践に生かしている。今年度は2回実施した。離床センサーに関して、何故使用するのかスタッフ間で認識して共有する。	四半期毎の委員会開催とともに、職員会議で集まる機会を利用した研修会を開催、身体拘束排除をテーマに年2回の実施義務を果たしています。拘束に係るか、係らないのかといった知識とともに、何故必要なのかも職員間で共有することを念頭に置いています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議の中で研修として虐待をテーマに行い、その中で知識を学び実践に生かしている。また会社全体でも取り組んでおり、各事業所から数名が集まり、虐待防止委員会を設置し、積極的に取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員会議の研修に取り入れている。難しい内容ですが、実際に利用している人を参考にして、理解するよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に管理者が出来るだけわかりやすく説明をし、理解していただくよう努力している。納得できているか、否かを確認しながら話を進めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	新型コロナ禍の影響により、運営推進会議が開けない状況ですが、事業所から利用者の家族、地域に配布する毎月発行されるお便りを運営に反映させている。	「つぐみ便り」は共通スペースとともに個人へのコメント欄があり、居室担当者が1ヶ月の様子を伝えています。面会も衛生面に配慮しつつ実現させていて、家族とのコミュニケーションは変わらず充実しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議にて意見等聞き反映させている。また代表との面談を年2回設けそこで職員の意見を聞いている。	各事業所の管理者が集まる会議で労務関係の議題があがれば必ずホーム会議で報告をおこなっています。また個々の家庭環境の変化には管理者と主任、副主任で気遣い、声をかけるようにしています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に人事考課に取り組む期間あり、管理者、職員の自己評価シートにて勤務状況や個々の努力、能力、適性を見出し向上心をもって働ける環境を築いている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内に研修部がある。新人研修及び主任、副主任の研修を行い、働きながらトレーニングする上で、チェック機構を設け、各々の成長や苦手な部分を評価する		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍にあり、以前のような交流は難しくなっていますが、Zoomを使った研修などに参加する。ソーシャルワークでもグループワークもでき、他事業所との交流を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にアセスメントを共有し、利用者様が利用された時に、スムーズに関係を築けるよう努力しています。その後も、本人の要望についての情報を共有しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前のアセスメント内でも、家族の希望、要望を反映しています。ご家族様が来所された時に意見交換をします。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	上記同様に、ご家族様と現場職員の意見を聞き、相談しながら確認している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様との関わりの中で、本人の暮らしの中にあつたものを具体的に反映する(家事手伝い、趣味、こだわりなど)		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と利用者様本人について近況を報告し、その際に、ご家族様の要望や意見を聞くようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナ禍の影響で、外出にも制限があり、以前より支援が難しくなっています。最近では緩和したこともあり、利用者様が希望していた在所へ行くことができました。	懐かしいものに出会うと発語も増え、本人の嬉しそうな表情が得られるため、職員は機会をみて馴染みの場所へ車を廻したり、家族にも呼びかけて昭和の家庭用品なども積極的に集めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	グループホーム＝本人の自宅という観点から、一つ屋根の下で暮らす仲間としてかわっていただいたり、本人のプライバシーを守るなど、メリハリをつけて対応しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も、相談・支援できることは継続している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の利用者様とのコミュニケーションの中で、本人の希望・要望を聴きとり、本人の本位で進められるよう、ご家族様、職員どうし、管理者、ケアマネと話し合い検討する。	開設以来の励行として、利用者がいかに自分らしく暮らせるかが集約された「わたしの暮らしシート」を居室担当者が作成しており、一人ひとりの職員に「利用者を中心に置く」という姿勢が培われていて安心です。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様本人やご家族様などから情報を集め、なじみの暮らし方を把握するように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の暮らしの様子は介護記録に記入し、表現や発言などを記入し、スタッフ同士で本人の心情も共有するように努める。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ホーム会議内で、各回に利用者様一人の介護計画の見直しをスタッフ全員で行っている。、本人や家族との会話の中にある意見を、多角的な視点で検討している。	居室担当者(介護職)と計画作成担当者、介護支援専門員がそれぞれの立場から利用者一人ひとりの「楽しみを見つけよう」に向きあい、チームで作っていることが伝わる介護計画書が備わっています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	血圧、食事制限、排尿回数、入浴有無など、個々にチェック表に記入しています。介護記録の情報を職員間で共有しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	月2回の提携医往診・歯科往診にて医療にニーズに応じています。その他ニーズがある時は、社内規約を確認し検討しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナ禍もあり、地域資源の活用も難しい状況ですが、利用者様との散歩時にゴミ拾いをすることで、本人に地域への貢献を認識していただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の提携医往診を受けています。最近のコロナ禍でのニーズもあり、家族も安心できます。コロナワクチンの際も、事業所での接種で迅速に対応していただきました。	協力医の訪問診療を受けていますが、受診数は月2回、1回とまちまちです。主任が立ちあい、看護師が記録をとり、薬の変更などは必ず家族に確認してから決定していて、事業所の真摯さがここにも現れています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常での変化等があった場合は看護師に相談し共有を行っている。内容により対応の変更をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご家族様の意向を確認し、医師や看護師との連携を図り、早期退院に努めます。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化、終末期のケアについて、ご家族様、主治医と話し合いをし、家族に意見を確認し、提携医の指示を受け対応しています。 また重度化加算を受けており、定期的に担当看護師が利用者様の様子や症状を確認します。緊急時にも対応してくれます	コロナ禍となり病室では家族が入りできない為、面会を可能とする当事業所は家族にとって貴重です。また旅立ちにあたってはお通夜に管理者はじめ職員も参列、事業所で撮影した写真や作品に親族も笑顔となり、毎回「やってよかった」に実っています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定例ミーティングの研修や、社内の緊急対応マニュアルを作成し、それに従うように指示しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	コロナ禍でも、年2回の避難訓練を実施しています。車椅子での避難方法も消防署に相談してありますが、もしものことを考慮し、更なる避難方法を消防署の方と検討中です。	車いすの避難方法は消防署にも指導を仰ぎつつ、引き続き模索しており、当面の課題です。また備蓄はローリングストックも含み5日程あるものの、即席防災食も検討中で、品目は少しずつですが増えています。	新採者には、その日のうちに「通報装置がどこにあるのか」「避難経路は…」についてオリエンテーションをおこなうことを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員会議内の研修にて、接遇を含めて指導しています。個人情報やプライバシーを守ることを、職員に周知しています。社内にて接遇対策の集まりもでき、先日もキャンペーンを実施しました。	虐待防止について話し合っていたところ「重たいよね」ということになり、テーマを「接遇」に切り替え、アンケートで「(職員の)気になること」を収受しています。更に11月は挨拶強化月間として重点化させています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の中で本人の意向を反映し、本人の選択が必要な時は、本人からの返事を待つように心掛けている。利用者様の希望を叶える企画ハッピープログラムを通して、本当の気持ちを言える環境を作っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員はホールや居室での各利用者様の状況を見て、何が必要なのか、したいのかを把握するように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自立している方は、自分で着ていただき、選べない方は、本人が選択できるように、複数用意し、本人の意思で決めていただく。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は利用者様全員で一緒のとれるよう努め、介助が必要な方でも出来ることはしていただき、機能低下しないように努める。	嚥下状態が低下してミキサーや刻みが必要な人もいます。同じ献立で職員も食卓を囲むことで、弾む会話だけでなく飲み込みの状態チェックが出来ており、月2回来所の訪問歯科医の助言も活かしています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の食事量を把握し量を調整するなどして対応している。また水分も色々な飲物や好きな飲物を提供している。体重増減による栄養バランスの確認を行い支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後に歯磨きを必ず行って頂くように声掛けをします。介助が必要な方でも、すべての介助をするのではなく、できるところまではしていただき、最後は職員が介助させていただきます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1人ずつのサイクルを把握し、できる限りトイレで排泄できるように対応していく。また介助が必要な方は、リハビリにトイレに自立できるようなプログラムを作成。毎日実行しています。	夜尿症もあって気持ちわるいとベッド上で脱いでしまうため、2時間おきに巡回して未然に防ぐよう努めているケースがありますが、排泄チェックを通じてのパターン把握で概ねパット交換は減っています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックを毎日行い、スタッフ間で共有しています。できるだけ、自力で排便ができるように軽い運動をすすめる。メニューの中に手作り地中海ヨーグルトを提供しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	午前・午後どちらでも入浴ができ、利用者様の好みに合わせて清潔を保持している。また立位が困難な方の入浴は、男性スタッフ2人で介助し、気持ちよく湯船に浸かれるように努めている。	週3回を目安としていますが、回数を増やしたいという要望はありません。湯は一人ひとり替え、ジャスミンや森林浴の浴剤を「選べる」よう用意しています。湯に浸かると十八番の民謡が飛び出す人もいます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ほとんどの利用者様が、本人のタイミングで「おやすみなさい」と言われ居室に戻られる。安眠できる環境を提供している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医療と薬局との連携を図り対応している。スタッフも薬の変更などに対して、連絡ノートや申し送りにて共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	男性利用者が多いが、食事の準備、片付けなど、その人の役割を持ち生活している。外食や買い物など楽しみ・気分転換の場を作っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日散歩をすることを日課にしています。新型コロナ禍の影響でドライブ外出は減っています。ここ最近の緩和してきた中で、ソーシャルディスタンスに配慮しながら、護国神社に紅葉を見に行きました。久しぶりの外出を堪能されていました。	毎日の散歩のほか、降りないドライブで季節の変わり目を楽しんだり、人気のない場所で少し散策などできる範囲で外出支援をおこない、護国神社の紅葉を堪能した日もあります。また出前ラーメンやお寿司のテイクアウトで外食気分を味わっています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	欲しいものを伝える事ができる方はお店と一緒にに行くなどして、お金を使えるよう支援している。訴えられない方は職員で必要な物を一緒に買うなどしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	今年の年賀状も利用者さんがコメントを書き、家族やお世話になっている人に送りました。また今年も利用者様宛に、本人の友人や会社仲間からの年賀状もここに届きます		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節によって張り絵などを飾りつけている。あまり過度にならないように配慮している。調理の様子や匂い、音などを感じられる空間としテレビの声や音など生活感のある居心地の良い空間づくりに努めている。	壁画づくりとイベント企画は月行事として位置づけていることから、時節に合わせた雰囲気の中で過ごしています。少しでも寒さや風を感じると利用者が窓を閉めるので、換気するときはエアコンの温度をあげて2時間ごとおこなっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様の中には、独りでいたい方もおり、一人テーブルを用意して過ごして頂く、かと言って孤立しているのではなく、その距離感が、他の方との関係を良くすることがある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人にとって馴染みの物を最優先している。仏壇や写真など、利用者様にとって大切なものをそばに置き、落ち着いた空間づくりを心掛けています。	居室にはテレビ、筆筒、ラジカセ、家族写真など思い思いのものが持ち込まれ、またレクリエーションの作品が並ぶ部屋もありますが、利用者たちは日中リビングに居るため個室は寝室となっています。	十分なケアがみられ安心なため、ステップアップとして、家族の安心と本人の状態変化の把握として「居室で定期的に写真撮影」することを期待します。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	当施設はバリアフリー設計になっています。車イスの方でも、ドアの開け閉めができるようにほとんどのドアを引き戸にしています。		